

平成23年度事業報告

平成23年度狛江市文化振興事業団の施設利用、自主事業に関し、以下のとおりご報告いたします。

三年目における中長期計画（事業実施計画）目標稼働率に対する施設利用状況につきましては、ホール目標稼働率61.5%に対し58.1%（対前年比3%増）、展示・多目的室では、52.7%に対し60.9%（対前年比12.8%増）、リハーサル室では4.4%減したものの、会議室では9.8%増となり、目標数値には達しなかったものの全般に利用率が向上いたしました。要因としては、23年度に実施したピックアップガイドの紙面拡大及びホームページのリニューアル等のPR効果が出てきたものと推測されます。また、施設利用料、付属設備利用料は予算額を上回り、成果配分金449千円となっております。今後もリピーター確保を含め利用率の向上を目指し、利用し易い環境づくりに努めてまいります。

次に自主事業ですが平成23年度はホール事業19公演（共催公演を含む）、ロビー事業8公演を実施しました。この内、昨年度東日本大震災の影響で延期した「クラシックバレエに親しむひととき（松山バレエ団）」公演を6月に、そして、当初の計画以外の事業として、急遽、4月29日と30日の両日に渡り、狛江市内団体のプロの皆様などのご協力をいただき「被災地支援チャリティライブ」を狛江駅北口交通広場（噴水広場）とむいから民家園にて実施いたしました。チャリティライブで集まりました募金は義援金として狛江市に寄付、そして4月から9月にかけて行った自主事業公演の入場料収入の一部を日本赤十字社へ寄付いたしました。

チケットの販売状況は景気の低迷もさることながら、3月に発生した震災の影響が色濃く、特に前半期の事業はいずれも苦戦しました。後半はいずれも健闘し完売もしくは完売に近い公演がホール事業は5公演、ロビー事業は6公演になりました。事業内容は今年度も多彩なジャンルで実施しましたが、特に「矢野顕子」、「小曾根真」など鑑賞型の人気演奏家の公演では若い世代の反応が多くあり、また同時に実施した公開リハーサルやプレ・コンサートも多数の参加がありました。自主制作事業は3事業実施しました。市内在住のプロの邦楽奏者らに、ゲストにサーカスを迎えた「和こるまアンサンブル」では、市内在住の宮尾登美子氏の監修「狛江の四季」を披露、また、2年目となったオープンハウスはダンスをテーマに開催、市内在住のプロのダンサーを中心に、公募によるアマチュアの皆さんは子供から大人まで約180名弱が参加、盛況となりました。そして、4回目となった「エコルマ・アンサンブルコンサート」は集客は激しかったものの、都心でのコンサートにひけを取らない充実した公演となり、また昨年度の文化芸術支援事業の対象者となった若手音楽家も参加しました。ロビー公演は取り上げるジャンルによってお客様の反応に差がありますが、往々にして公演前は反応が鈍く、公演直前にチケット販売が伸びる場合が多い状況です。支援型事業に関しては、公募により2団体を決定、実施しました。

来年度も引き続き多くの市内関係機関の協力を仰ぎ、事業を実施していきたいと考えます。